

令和7年3月7日

京都鞍馬口医療センター 第14回地域連絡協議会 議事概要

日 時 令和7年3月7日（金） 14:00 ~ 15:00

出席者 地域の医師会代表2名、地域の行政職員2名、地域の社会福祉協議会代表1名、住民代表1名

(京都鞍馬口医療センター)

院長、副院長、統括診療部長、事務部長、看護部長、副看護部長、
総務企画課長、地域医療連携センター看護師長

1. 開会の挨拶

今年度「医師の働き方改革」及びそれに伴う「MSの働き方改革」は当院にとって大きな課題であった。一昨年より宿直体制をとったが、時間外勤務を減らすために患者への説明を就業時間内にしたり、チーム医制を導入したりとA水準を保っている。同時に、夜間休日の救急搬送が課題となった。

来年度は、ハード面（回復リハビリ期病棟の改築）とソフト面（病院機能評価）の向上に努めるので、ご意見をいただきたい。

2. 委員（出席者）紹介

名簿のとおり

3. 活動状況報告等 ※詳細：別紙参照

①「JCHO京都鞍馬口医療センターの下り搬送の現状」（四辻 看護師長）

資料に沿って説明

②「市民公開講座について」（四辻 看護師長）

昨年からアンケートをもとに要望のあったテーマを選ぶようにしている。新型コロナウィルス感染症の定点を超えた場合は中止としたが、1回あたり平均21名の方が聴講されている。

「自治会から配られた案内を見て来院した」という方が多く、次いで「当院からの案内郵送」「区役所のチラシを見た」が参加のきっかけとなっている。

引き続き、皆様からの協力を賜りたい。

4. 意見交換

出席者より) 救急車と私的に利用しようとする事案もあると聞くが、現状はどうか。また、緊急かどうか判断することは困難だと思うが如何か。

回 答) 三重県では、上記のような場合に病院側が利用者に費用を請求する場合もあるという。緊急を要するかどうかは、救急隊で判断可能。

救急車を呼ぶか否か迷っている場合は、「# 7119」に相談する方法もある。一般の方へ周知が十分でないと思うが、利用件数は増えているとのことで、ぜひ「# 7119」を相談窓口として利用してほしい。

出席者より) 今年1月に京都府医師会が防災計画を作成した。京都鞍馬口医療センターとして、行政との連携・協定は締結しているか。

回 答) 院内の防災計画等は現在進めているところであるが、北区との連携協定は現時点では結んでいない。来年度に向けて取り組む課題としたい。
第二赤十字病院や、両大学との役割分担も検討する必要があると思うが、北区の住民の安全を守ることを優先したい。

出席者より) 最近は、救急をよく受入れている印象を受ける。
また、WEB予約を導入してほしいという意見が出ている。

出席者より) 防災計画については、これから一緒に考えていきたい。
包括支援センターでは現場で急変に対応することも多く、救急を受け入れてくれるのにはありがたい。
また、結核の治療や感染症では日頃からお世話になっているが、引き続きよろしくお願いしたい。

出席者より) 日本活断層学会が、南海トラフ地震が2030年代に起こると発表した。
一昨年に第4次京都市地震被害想定が公表されたが、第3次に比べると火災件数が倍増している。出雲路エリアや柏野エリアで大きな火災が起きることが想定される。
京都鞍馬口医療センターの立地から推察するに、近隣住民が殺到する。避難場所は近隣の学校であることを周知し、院内では患者の対応を行えるようにした方が良い。

先日、京都市消防局全体で、地震を想定したシミュレーション訓練を実施

したが消火活動に人手をとられてしまい、救急車を出すことができないということが発覚した。もし地震が起こった場合は、救急搬送はなく直接来院される方のみだと思われる。

出席者より) 地域住民の多くは京都鞍馬口医療センターを頼りにしている。よろしくお願いしたい。

市民公開講座について、学区内の回覧で参加者が増えているのは嬉しい。「#7119」の周知するため、市民公開講座のビラに記載するはどうか。

出席者より) 診療科ごとに病院を転々とすることは体力的に厳しく、京都鞍馬口医療センターで受診を完結させたい。

回 答) 該当する診療科がなかつたり特殊な治療ができなかつたりする理由から、大学病院や専門性の高い病院に紹介することは承知してほしい。ただ、患者の多くが70歳代以上となっており、遠方の病院に行くことが困難なことも承知している。高齢者に対し密着した医療機関でありたい。

待ち時間が長くなっていることも了承しているが、デジタルサイネージの導入等により、待ち時間対策も行なっているので見てほしい。

引き続き皆様に来院いただけるように、病院としてできる限りの調整はしていく。

5. 閉会の挨拶

意見交換の場では、防災のお話が多く出たことが印象的であった。地域の皆様から、防災の面からも頼りにしていたいことは驚く一方、身の引き締まる思いがした。

最近は救急をよく取ってくれるというお褒めの言葉を頂戴したが、本日の外来で救急窓口の対応がよくなかったというご意見も受けた。少なからず働き方改革の影響はあるが、救急との両立について院内でも対応していく。

以上